

多摩市に中央図書館をつくる会

2018.02.26. 16:30~18:00 場所) 本館講座室
出席

○つくる会 : 5人

○図書館本館整備担当: 中島課長、笹原主査

○図書館 : 栗崎館長、米山サービス係長

○コンサル : 寺田、中野

◇本館（中央館）整備予定地についての情報

(1) 敷地使いや全体の環境や機能

- 中央公園内の駅側の場所で、基本構想に提案されている緑を生かせる環境と単独館の図書館づくりに期待している。
→余談だが、ニュータウン開発時に提案されていた都市計画図によると、図書館用地はココリアの西側だった。その後、市の検討の中で現在のクロスガーデンが候補地となったこともある。
- せっかく育った緑が減少することを心配する意見もあるが、逆にスロープのある場所は木が茂って暗く、通り道として心配な場所でもあるので、建物が建つことで明るくなるという声もある。
- 建物の階数は中身の検討で決まってくる。開架部分はできるだけ広く取り2層でできれば理想だが、南側から見ると書庫など地下に埋まる部分もあるので、機能の可能性（複合機能）を広げる場合、部分的に3層以上になっても、南側が高い斜面地なので、周辺への圧迫感はあまりないと考え。隣の商業施設は半永久的な施設とは考えにくい。

(2) パルテノン多摩や中央公園との連携、相乗効果

- 中央図書館がパルテノン多摩近くにあることは、教育文化施設として相乗効果が期待できるので、今回パルテノン多摩改修の基本計画を並行して検討できることは、良かった点だ。しかし、本来図書館にあるべき機能を離れたパルテノン多摩に持たせることで不便が生じないように考慮して欲しい。相乗効果とはお互いが機能を発揮できることであり、重複をさけるだけのものではない。例えばパルテノンに提案されている子育て支援機能（絵本の開架、授乳施設など）、サロン・ひろば的な自由空間、カフェ、青少年の居場所、博物館機能の分担など、どちらにも必要なものやどちらかで果せるものがあるので、公共施設面積を減らすことだけが目的とならないように充分検討する。
- パルテノン多摩はホール機能として音楽・演劇、ギャラリーでは絵画展など芸術活動が活発に行われているし、これからその活動支援を市民とともに厚くしていくことが期待されているので、中央図書館ではその分野の資料を充実させていくなど、資料の面で支えていくことが求められる。
- 公園内の施設ということで、公園に遊びに来る多くの子育て家族、保育園児たち、散歩の高齢者たち、また買い物に来た人を呼び込む工夫を期待したい。公園を歩いていると図書館の中が見えて入ってみたいくなるなど。

(3) その他

- 中央公園造成時の情報から、候補地は開発時に盛り土で整形された場所であり、土地を削ることによって、公園内の池など他の部分に影響がないか心配もあるので、必要な調査をするなど慎重に建設にあたって欲しい。
- 最初からできるだけ機能を盛り込むという手法もあるが、投入できる財源を考慮しあとから必要になった時に増築できる可能性を考えて建てる手法もある。
- 交通の結節点である多摩センターは、将来私鉄が延びる予測も有り、街の整備の充実度が集客と住民を増やす可能性がある。パルテノン多摩、中央公園と同時に中央図書館がその一役を担うこともできるので、それも視野に入れて他市にはない多摩市ならではの地域資料の充実を図ることが重要であり、図書館と親和性のある他の機能を複合することも研究する必要がある。親和性があるという意味では資料を有効に使える学習施設が妥当ではないか。
- 地域・郷土資料等の収集について学芸員でしか判断できないものがあるが、それをどこでどう預かるか。司書が行うものではないが図書館ではないだろうか。
- パルテノンに入る機能等の情報は、議会から聞き取って得ている。

◇意見伝達

→ 緑を生かせる環境と単独館の図書館づくりに期待。

→ スロープのある場所は木が茂って暗く、通り道として心配な場所で、建物が建つことで明るくなる。

→ 開架部分はできるだけ広く取り2層でできれば理想的。

→ 周辺への圧迫感はあまりない

→ 本来図書館にあるべき機能をパルテノン多摩に持たせることで不便が生じないように。

→ 子育て支援、サロン・ひろば的な自由空間、カフェ、青少年の居場所、博物館機能の分担など、どちらにも必要。

→ 公共施設面積を減らすことだけが目的とならないように。

→ パルテノン多摩は音楽・演劇、絵画展など芸術活動が活発。中央図書館ではその分野の資料を充実させていく。

→ 公園に遊びに来る多くの人を呼び込む工夫を期待。

→ 公園を歩いていると図書館の中が見えて入ってみたいくなるように。

→ あとから必要になった時に増築できる可能性を考えて。

→ 他市にはない多摩市ならではの地域資料の充実を。

→ 図書館と親和性のある他の機能を複合することも研究する。

◇本館（中央館）の施設環境や機能について

（１）資料提供やサービス、運営について

- ・基本構想には開架部分約30万冊としか書いてないが、これからの中央図書館の取蔵能力をどれだけ用意すればよいのか、将来紙媒体が減るかもしれないという議論もある中、悩ましい想像をしなければならない。しかし、今の時点では現在出版されている資料を保存する役割もあるので、できるだけ書庫能力を上げておきたい。過去に図書館協議会答申で全100万冊という提案もあったが、人口推移が横ばいとしてせめて開架30万冊、書庫50万冊（開架書庫も検討、開架にしたときに所蔵能力が落ちるなら要検討）は譲れない提案。調布でも書庫があふれているし、浦安でも増築している。
- ・階高を高くし将来書架を増設するなど、フリースペースを大きくとりたい。
- ・延べ床面積については、できるだけ広く取ってほしい。今後どのような新しいツール・機能が必要になるかわからないので、サービスに合わせたコーナーづくりは必要だが、内部はできるだけ間取り変更できるように設計して欲しい。
- ・サービスの具体的提案については、基本構想に上げられている機能を実現するよう望む。別紙を参照
- ・運営については、公立図書館として直営でいくことが最も効率的である。その際一番大事な要素は人材の育成なので、中央図書館整備の機会に行政的な困難があっても専門職制度を確立してほしい。中央図書館サービスとしてのレファレンス対応や地域図書館サービスとしての少数精鋭でもなんでもできる職員を養成する。
- ・電子図書館機能は、自治体図書館レベルで今どこまで対応すべきか調査が必要である。
- ・過去の地域資料をできる限り長期間ストックできるようにしたい。

（２）施設的环境と機能について

- ・ガラス窓多用の施設は開放的で受け入れやすいところもあるが、建物は長寿命化(100年)を想定して、全体と内部のそれぞれの機能を考え、エコにも配慮して建築して欲しい。南相馬市で視察した時に伺ったが、大震災の時にほとんど建物に影響がなかったそうだが、地震に強い建物も重要なポイントである。
- ・（被災した人の一時受け入れ施設となった）森の中の図書館のイメージを大切に。
- ・内部の家具や壁などは、東京都民の森の多摩産材を使用するなど、暖かみのある居心地のよい空間を作って欲しいし、足音にも配慮する床材を使用して欲しい。都立多摩図書館で採用。
- ・空調は床から吹き出しが最近の新しい図書館で見られるので、検討してほしい。都立多摩図書館、荒川区ゆいの森など
- ・照明も開架室の重要な視点であるので、手元が明るくなるよう工夫して欲しい。
- ・駐車場については、パルテノン多摩の駐車場があるので多くはそちらを共用するとして、運搬車以外に障がい者用など数台は必要と考える。障がい者支援法が出来、公共施設に配慮が求められている。
- ・駐輪場はこれから自転車利用が増えることも想定して、かなり用意した方がよい。レンガ坂にはみ出すと危険である。ココリア駐輪場、クロスガーデン駐輪場は商業施設でずっと使えるかわからない。
- ・上下階の行来をする場所が少ないので、両方に駐輪場が必要。2段式駐輪機は上にはあまりとまっていらない。
- ・自動貸出機は当たり前のように配備されると思うが、何冊でも一度に貸出できるICチップ方式と、調布市立中央図書館が採用しているバーコード読取り方式があるので、費用対効果を考慮して取り入れてほしい。職員を減らすために自動貸出機を入れても、かえって職員が利用者対応に忙しく、期待していたゆとりにつながらない事例も報告されているので、調査して検討して欲しい。町田市の事例

◇意見伝達

- できるだけ書庫能力を上げておきたい。50万冊は譲れない提案。
- 延べ床面積は、できるだけ広く取ってほしい。
- 内部はできるだけ間取り変更できるよう。
- サービスの具体的提案は、基本構想に上げられている機能を実現するよう望む。
- 運営については、公立図書館として直営でいくことが最も効率的。
- 大事な要素は人材の育成。
- 専門職制度を確立して。
- 地域図書館サービスとしての少数精鋭でなんでもできる職員を養成。
- 建物は長寿命化やエコにも配慮して。
- 森の中の図書館のイメージを大切に。
- 内部の家具や壁などは暖かみのある居心地のよい空間を作って。
- 足音にも配慮する床材を。
- 空調は床から吹き出しも検討して。
- 照明は手元が明るくなるように。
- 駐車場は運搬車以外に障がい者用など数台は必要。
- 自動貸出機は費用対効果を考慮して調査して検討を。

◇地域館や駅前拠点館の魅力化の方向性について

(1) 資料提供やサービス、運営について

- ・資料、サービスは地域館、拠点館ごとにその地域の利用者目線で、必要とされる資料、サービスを地域館職員が考えて提供することが求められる。そのためには専門的な知識と能力が必要である。
- ・運営は全館直営であるべきで、中央館との連携も周辺の学校図書館との連携も委託ではスムーズにいかない。唐木田図書館を見れば明らかである。
- ・図書館を委託運営すると、その会社の人材育成として使われて、すぐに他の地域にいつてしまう。直営なら地域に根ざした人を育てていける。
- ・今後地域館2館については建替えや改修が早めに予測されるが、多摩市の特長である丘陵地の図書館配置の観点から、分館を残すことは必要である。
- ・拠点館は駅前であることを好条件にした働く人や学生に便利な図書館として、資料やサービス、開館時間も含めて見直すことも必要だ。やはりその地域に何が求められているかを市民に聞いて充実することが重要である。
- ・月1で全館休館にし図書館員同士が会う機会・整理日を設けた方がよいのでは。

(2) 連帯型図書館サービス網とセンター館の機能と名称

- ・地域館をバックアップする中央館とはどういうものか、多摩市は今でも選書購入配備、全体運営は本館で行っている。資料も館籍がほとんどない形。むしろこれからは地域館毎のある程度の予算振り分けで本の選書、購入をすべきでは？
- ・人材育成も新人は地域館でベテランについて修行して、中央館も経験するという手法を調布市が取っているので参考にすべきだ。中央館では役割分担されて部分しか見えないのでは。先進的な他市の図書館での研修も効果的である。
- ・地域館それぞれに図書館に関わりたい市民が育ちつつあるので、大事にして協働できるとよい。その際図書館がやるべきことと、市民が支えることを話しあい確認することが重要である。
- ・中央図書館は調べ物のための深化した本だけでよいのか、その地域の地域館の役割もある。
- ・ここに行けば多摩市のことがわかるという資料は中央図書館の棚にあると良いのか、それとも駅近の永山にも関戸にも複本であると良いのか、研究が必要。地域資料は増えることがあっても減ることはない。収集は中央館の役割か。
- ・例えば宮崎駿さんの関連本は、宮崎さんアニメ発祥の関連地域の関戸図書館にあると良いし、アニメも資料として入れるなら関戸図書館にコーナーがあれば、ファンが多摩市を訪ねるかもしれない。このようなアイデアはみんなが考えればいくつも出てくるのでは？

◇会の活動視点から、提言しておきたいこと。

初代図書館長伊藤峻さんの導きで、今まで多くの図書館関係の専門家から、図書館の基本的な役割とあり方を学び、そして多くの図書館を見てきました。他市では国からの指導も有り、「新しい公共」いう観点から、図書館の運営方法も民間委託や指定管理者制度の導入を取り入れていく方向が少しずつ広がっているようにも見えます。一方取り入れてみたもののやはり馴染まないと直営に戻した例も出てきています。限られた財源の中から試行錯誤をしながら、地方自治の実験として取り組んだ貴重な様々な事例に学んで、多摩市では今まで培ってきた歴史と経験を基に、直営を堅持していきたいと心から願います。

開館時間の延長でも、話題になっている新しいサービスでもそれが図書館に本当に必要なことなら、民間委託しなくても直営の職員が出来るはずです。民間委託で実施しているイベントが多い図書館運営は、一見華やかで人を集めて賑わっているように見えて、一番肝心の一人一人に必要な本が届いているかは疑問です。そして運営費は高く付きます。

多摩市がその姿を堅持することが、三多摩の引いては全国の図書館に影響を与えるものと信じています。それくらいこの中央図書館づくりは全国から注目されていることを忘れないで欲しいと思います。

◇意見伝達

- 資料、サービスはその地域の利用者目線で、そのためには専門的な知識と能力が必要。
- 運営は全館直営であるべき。
- 今後地域館2館については建替えや改修が早めに予測される。
- 分館を残すことは必要。
- 拠点館は駅前であることを好条件に働く人や学生に便利な図書館として。
- 資料やサービス、開館時間も含めて見直すことも必要。

→ これからは地域館毎の予算振り分けで、本の選書、購入を。

→ 人材育成も新人は地域館でベテランについて修行して。

→ 先進的な他市の図書館での研修も効果的。

→ 地域館それぞれ市民が協働できる。

→ ここに行けば多摩市のことがわかるという資料は中央図書館の棚に。

→ 駅近の永山にも関戸にも複本であると良い。

→ 収集は中央館の役割か。

→ 多摩市では今まで培ってきた歴史と経験を基に、直営を堅持していきたい。

◇多摩市の中央図書館の構成要素（基本計画策定に向けて）

2018.01.14 1月定例会で出たキーワードを基に

◇意見伝達

観点	中央館に不可欠な構成要素	参考となる他都市の中央館等の例、その他
目標	多摩センターの新たな魅力(ニュータウンの中央館) 大学、研究機関、企業との連携	
資料	所蔵規模：開架 30 万、開架書庫 30 万、閉架書庫 20 万 特色あるコレクション 視聴覚（媒体に頼らない、将来性） 有料サイトの提供、タイトル数を増やす 市民のコレクション（市民活動支援） 障がい者支援資料の充実 ビジネス支援資料	浦安市、北区 調布市（映画）、南相馬市（原発） 札幌市 Naxos ミュージック、相模原市橋本図書館、浦安市 浦安市 NPO市民アーカイブズ多摩 地域館と分担 浦安市、伊万里市
スペース	地域資料・行政資料の部屋（バルテノン連携） レファレンスカウンター 共同学習、研究室、研修室、多目的室 グループ学習室（大・小） 企画講座など開催用集会室（著者講演会、図書館活用講座） 友の会活動室：ボランティア・市民連携 市民活動支援 読書席 600（北区では少ない）～滞在型ニーズ、時間消費 静かな読書室 お話しの部屋 子育て支援機能（授乳室、にぎやかな絵本・児童室） 企画展示：他のイベント・時期物連携 対面朗読室、録音室 カフェ機能、持ち込みで食事が出来るスペース テラスは図書館外へ	北区の部屋 浦安市 ゆいの森、大学図書館のラーニングコモンズ バルテノンと連携も 小平市、伊万里市 北区、さいたま市、武蔵野プレイス ゆいの森 800、北区 500 ゆいの森 ゆいの森、南相馬市 バルテノンではだめ。図書館に併設必須 バルテノン企画と連携、塩尻市 バルテノンと分担 多摩中央公園内の立地
複合	☆多摩市の将来ビジョン ☆町のプロフィールを鳥瞰、多摩市関連のコンテンツ充実一例：健幸まちづくり、 ☆産業振興機能 ☆放送大学のサテライト機能など学習機能	大和市、

2018.02.26. 18:00~19:45 場所) 本館講座室
出席

- 考える会 : 9人
- 図書館本館整備担当: 中島課長、笹原主査
- 図書館 : 栗崎館長、米山サービス係長
- コンサル : 寺田、中野

◇本館（中央館）整備予定地についての情報

(1) 敷地使いや全体の環境や機能

- ・周辺に地域図書館がない、公民館はもとより、コミセンもない。
- ・近年、高層マンションが林立。子育て世代が多いのでは？
- ・中央公園は子育て世代がよく利用している（特に、土日）。
[情報] 近隣の保育園も利用しているとのこと。
→地域図書館的利用も高いと思われる。
- ・他の地域図書館や永山図書館と比べ、複合施設ではないため、当初は近隣の中高生の学習室としての利用が高くなるかもしれない。
- ・近隣のショッピングモール（借地契約であると10年とのこととその先は未定とのこと）の利用は多い。
→買い物ついでの利用も多いと思われる。
- ・公園利用者が休憩場所として使うことは考えられる。その場合、ショッピングモールの駐車場を利用して公園を利用している人など、やや遠方からの公園利用者による利用も多くなると思う。
- ・公衆トイレを残さないのであれば、図書館のトイレが公衆トイレとして利用される可能性が高いので、閉館後のトイレ利用の配慮が必要になるとと思われる。
- ・多摩センター駅からの距離は多少あるため、多摩センターの北側住民の利用は、買い物ついでということにはならないかもしれないが、しかし、北側周辺には地域館がないので、そうでもない。
- ・周辺自治体からの利用とすれば、八王子駅へのアクセスが悪く、地域図書館環境のよくない八王子市民としては、京王線相模原線の堀之内駅周辺などの住民は、南大沢駅近くの八王子図書館の分館を使うよりも、こちらに来るかもしれない。若葉台からわざわざ来るとは思えない。相模原市からもわざわざ来るとは思えない。町田市もしかり。稲城市もしかり。
- ・周辺自治体からわざわざ車で利用するような期待はないと思われるし、それに
→ 周辺自治体からわざわざ車で利用するような期待はない。
応える必要はないと思われる。むしろ、聖ヶ丘図書館、唐木田図書館等の方が、周辺自治体からの利用の期待が大きいのではないか（場所からみて。但し唐木田図書館は一般利用の駐車場を置いていない。聖ヶ丘はコミセンと共通の利用と台数は少ない）。
- ・緑の問題、池や遊歩道などの形状について。
→配置計画、都の緑の条例などから残る緑もある。また、新植も出てくるだろう。
→生態系を残したいので、今ある木より建物を低くしたい等の意見もある。
- ・池の前の席はゆったりとした気分を感じられるのでほしい。
- ・駐輪場は必要。ロードバイク用やレンタル自転車もあると便利。
- ・電動車いす使用者用のエレベーターも必要だろう。
→電動車いすから図書館内用車いすに乗り換える等も必要になっていく。
- ・多摩には企業内保育も多いので、保育活動の一環にある図書館としての面。

◇意見伝達

→ 高層マンションが増え、子育て世代が多い。

→ 地域図書館的利用も高い。

→ 当初は近隣の中高生の学習室としての利用が高くなる。

→ 買い物ついでの利用も多い。

→ 公園利用者が休憩場所として使う。

→ 周辺自治体からわざわざ車で利用するような期待はない。

(2) 他の社会教育機関との連携について

□パルテノン多摩

- ・10~20人の学習室が2~3あるとよい。
- ・パルテノン多摩に同規模の学習室をつくることができない場合には、図書館利用に限定しない学習室としても提供できることも考える必要がある。
- ・ロビー機能はパルテノン多摩に期待する。
- ・すでにパルテノン多摩で行っている古文書収集やニュータウン開発の歴史資料などは、パルテノン多摩の収納庫と活字資料の保存など、連携もありうる。
→地域資料は調温調湿問題から分担をしている。
(古文書-文化財担当 市制以降-図書館 ニュータウン関係-パルテノン多摩)
- ・市民活動の資料収集・整理・展示は、地域図書館ではできないが、是非、充実させてほしい。そのためにアーキビストを専門に雇用して対応、また、そのようなコーナーを確保してほしい。これはパルテノン多摩ではできないと思われる。
→市民アーカイブス多摩を作っている(住民図書館的考え)
→俳句の会等の記録もしていきたい。時代時代のものを。

◇意見伝達

- 図書館利用に限定しない学習室利用を考える。
- 古文書収集やニュータウン開発の歴史資料などは連携も。
- 市民活動の資料収集・整理・展示はさせてほしい。

(3) その他

- ・駐車場は障がい者、搬入用のみを基本とし、その上でブックモバイルを復活させる可能性も考慮しておいてほしい。
- ・駐輪場、乳母車、高齢者・障がい者の歩行でのアクセス(押し車等)の対応は必要。
(ショッピングモールの南側の駐輪場はスペースが大きいですが、それでも結構、一杯のときがあるほど 駐輪場を無制限に開放すると通勤・通学のために利用される恐れもある)。

- 駐車場は障がい者、搬入用のみを基本に。
- 駐輪場、乳母車、高齢者・障がい者の歩行でのアクセスの対応は必要。

◇本館(中央館)の施設環境や機能について

□資料提供やサービスについて、また、運営について

- ・書庫を充実させてほしい。配架の割合は、拠点館並みかそれより少し多いぐらいでよい。
その代わりに、書庫にある本を利用しやすく(利用者も書庫に入れるとか、書庫の配架の様子がバーチャルで分かるなど)してほしい。
本の所属は決めず、利用者が返却したところに配架していくというシステムで、配架する本を、本館と他の館で、体系的、形式的に配分することはしない方式で続けてみてほしい。
- ・講座室とギャラリーを兼ねたものを北海道置戸町の図書館がつくっていた。ガラス張りになっていた。有効利用だと思った。
- ・質素でいいが、開架書架、閲覧室は、木のぬくもりを感じさせるものにしてほしい。
- ・個人利用割に仕切った机は、この場所の図書館には合わないと思う。
- ・読書している周りのひとたちの様子が伝わりあうような閲覧室を基本として、数名のために、資料を並べて研究するような調査室を設けてもよい。その場合、これも学習室と兼用してもよいかもしれない。
- ・閲覧席を周辺にもおき、公園、通りと面して読書することも可能とすれば、公園や周辺と一体化した図書館の中での読書というイメージが増すかもしれない。
- ・他方で、落ちついて室内で読書する環境のスペースもあるとよい。
- ・低層であってほしい。
- ・書庫を地下に2層で整備し、収納規模を大きくとっておいてほしい。
- ・BM復活用の車庫も必要か。
→地方ならBMは効果的(貸出の20%がBMになっている)だが、今の多摩に必要だろうか。

- 書庫を充実させてほしい。
- 書庫にある本を利用しやすくする。
- 講座室とギャラリーを兼ねたもの。
- 質素でいいが、開架書架、閲覧室は、木のぬくもりを。
- 個人利用割に仕切った机は合わないか。
- 数名のために調査室を。
- 公園や周辺と一体化した図書館の中での読書というイメージ。
- 落ちついて室内で読書する環境。
- 低層であってほしい。
- 書庫を地下に2層で整備し、収納規模を大きくとっておく。

◇本館（中央館）児童サービスの施設環境や機能について

□資料提供やサービスについて、また、運営について

- ・本館の敷地を検討するいろいろな過程で、児童の閲覧コーナーを子ども図書館として他の施設に設置という声もあったようだが、児童の閲覧は切り離さないで児童室として本館の中に一体化しておいてほしい。
- ・静かさを保つスペースを侵さないところに、利用者が読み聞かせや会話が自然にできのびのびと過ごせるスペースとして児童室を作りたい。
- ・オムツ替えや授乳のコーナー、子ども用トイレ（大人のトイレにあわせるのではなく）をつくってほしい。
- ・中高生などが声をだして利用できる学習スペースやグループ学習できるコーナーがほしい。
- ・これまで、多摩市には長年の要望にもかかわらず「お話の部屋」のある図書館は1館も実現していない。再整備にあたっては独立した「お話の部屋」を作りたい。カーテンなどで仕切るのではなく、外部の音を遮断した部屋が必要。お話の部屋は、本館だけでなく、これを機に他の6館にも設置の方向にもって行ってほしい。
- ・子どもの目線にあった書架の配置と本の表紙を見せる多くの工夫が必要。
- ・地域館の児童サービスとも係るが、地域館には、長年子どもたちに読みつがれ、ときの試練に耐えた良質の本を選び抜いて、基本的な本は複本でもおいてほしい。蔵書はいたずらに新作を追うのではなく、刊行年の古い本も大切に、手に取りやすい工夫、子どもが自分で選びやすいことも配慮した蔵書とし、本館には、加えてさらに幅と奥行きをもたせた蔵書構成にしてほしい。
- ・児童サービス担当、ティーンズサービス担当を全館配置し、本館は分館担当者への情報交換、支援を行い、専門性をたかめる体制を作りたい。
- ・児童図書研究室の充実を図り、図書館司書、学校図書館司書、子どもと本に係る市民ボランティア、研究者等々が活発に利用できるようにしてほしい。
- ・多摩市では、小中学校、保育園、児童館、学童クラブでの定期的な出張おはなし会を図書館が行っていない。上記の学校、園、施設の何ヶ所にも、市民ボランティアが自ら開発し、定期的に（長いところでは20年以上）行っている。本来ならばアウトリーチサービスとして、図書館の仕事であろう。今すぐに図書館が担うには困難があると思うが、まずは、市民が積み上げてきたこれらの活動に図書館が積極的に関わってほしい。本と子どもに精通したコーディネーターをおき、活動をひろめ、継続できるようにしてほしい。それとともに、ゆくゆくは図書館が担うことを視野においた活動を展開してほしい。
- ・図書館におけるボランティア活動の受け入れや支援等の方針を定めてほしい。受け入れ体制を整備してほしい。

◇意見伝達

- 児童室は本館の中に一体化して。
- 利用者が読み聞かせや会話が自然にできるスペースとして児童室を。
- オムツ替えや授乳のコーナーと子ども用トイレを。
- 中高生学習スペースやグループ学習できるコーナーを。
- 外部の音を遮断した独立の「お話の部屋」を。
- お話の部屋は、本館だけでなく、これを機に他の6館にも設置を。
- 子どもの目線にあった書架の配置や本の表紙を見せる工夫を。
- 地域館には、長年読みつがれた良質の本を、基本的な本は複本でも。
- 子どもが自分で選びやすいこと。
- 本館にはさらに幅と奥行きをもたせた蔵書構成を。
- 児童サービス担当、ティーンズサービス担当を全館配置専門性をたかめる体制を。
- 児童図書研究室の充実を、活発に利用できるように。
- 市民が積み上げてきた活動に図書館が積極的に関わって。
- 図書館におけるボランティア活動の受け入れ体制を。

◇地域館や駅前拠点館の魅力化の方向性について

- ・地域館も現在の規模と種類での配架が必要である。今、周辺の市民は、本館が整備されても、日常的には馴染んだ地域館を利用すると思われる。
→本館には落合地域館としての意味合いももってほしい。
- ・地域館も館長をきちんと各館配置して、責任をもって運営してほしい。本館はそれらの館長を相互交流するネットワークをつくる要になってほしい。
- ・本館は書庫をもち、各地域館、駅前拠点館の利用に合わせた配架の状況全体として見渡せる役割を担い、各館の館長との情報交換・協議の中で、配架のバランスが悪くなってきたら、それを調整するという役割を担ってほしい。つまり、多摩市の7館全体を一つの図書館（図書館網）として、配架やサービスを考えていってほしい。
- ・本館は、地域館ごとではやりきれない、利用者の、図書館や読書に関わるさまざまな活動（図書館友の会〈各館〉の連絡会、読書会組織の連絡会、音読ボランティア、読み聞かせ、文庫、識字支援、日本語支援のほか、さまざまな催し）の相談にのり、情報を集め、支援する役割を、地域館の職員と連携して、担ってほしい。

◇意見伝達

- 地域館も現在の規模と種類での配架が必要
- 地域館にも館長を。
- 多摩市の7館全体を一つの図書館として、配架やサービスを考えて。
- 本館は、地域館ごとではやりきれないさまざまな活動を、地域館の職員と連携して、担ってほしい。

◇会の活動視点から、提言しておきたいこと。

- ・長く残る図書館として、華美なものではなくてよいので、安定した堅実な図書館をつくってほしい。また、修繕しやすいような配慮もしてほしい。
備品などは耐用性があるものを、しかし、買い替える必要がある場合には特別に高くならないものを設置することができるように、デザインもシンプルな方がよいと思われる。
- ・もし、特徴を持たせるとすれば、多摩市の市民の活動のアーカイブズ的機能を持つことを特徴にできると面白いと思う。施設としてどのようなものが可能なかは分からないが。
- ・電子図書については、自治体の図書館で対応する必要があるように思えない。都立、国の電子図書配信が、自治体図書館にも普及させる政策になったときのネット環境の整備は持たせておく必要があり、館内のWi-Fiの利用環境は整備しておく必要があるかと思われるが、しかし、電磁波の問題に警戒し、また過敏な体質の市民もいるので、これも慎重な検討が必要とも思われる。
Wi-Fi環境の公開は、ネット利用だけを目的に図書館を利用する人も、一時期、多かったようだが（海外）、国内で、携帯によるネット利用が増えたため、ネット利用目的だけの利用の集中はあまり警戒する必要はないのかもしれない。
- ・多摩にも外国からきている人が多くいるが、その人たち（特に小さな国の人達）のコーナーも設置したい。海外のどんな小さな国でも日本語の本がある。そういった本は寄贈してもらえたりもするだろう。
- ・現敷地には周辺に多く駐車スペースがみられる。駐車スペースをとる為に図書館スペースが減るとことはなくしたい。
- ・Wi-Fiは公共の場では使えるようにしてほしい。
- ・路線バスの経路を変更して、図書館をバスルートにいれたい。

- 長く残る図書館として安定した堅実な図書館をつくって。
- 修繕しやすいような配慮もしてほしい。
- 多摩市の市民の活動のアーカイブズ的機能を持つことを。
- 電子図書について対応する必要があるように思えない。
- Wi-Fiの利用環境は整備しておく必要がある。

◇個別意見—多摩市の公共施設の役割と機能

多摩市の図書館サービスシステムにおける基本計画は、全域サービスの充実を目指す事と本館と各地域図書館の役割を検討される際に、これまで出てきた各地域の市民の要望と声を反映してください。

はじめに、これまで、豊ヶ丘図書館（人口密集地域の地域図書館）と豊ヶ丘複合施設がニュータウン地域の中で果たしてきた役割とその実績をしっかり踏まえて、これからも、地域にとって欠かせない機能を持つ社会教育施設である事を再認識して頂き、本館再整備基本計画を検討される貴委員会において、「本館と地域図書館の役割と機能」を検討される事を願っております。

1. 当地域図書館は、歴史的には、本館が西落合中学（廃校）跡地にできるH20年までは、昭和57年開館後年間貸し出し冊数が249846冊から最高353058冊まで伸び、その後、平成8年に永山図書館ができて30万冊台をキープし、H19年まで298342冊の貸し出しをしてきました。全体の図書費が増額され、本館や駅前の永山図書館などの蔵書も充実される中で、H19年には21万冊台、H20年には19万5963冊と落ちていて昨年163241冊今年は157656冊となっています。（蔵書数がH25年3月31日の66190冊からH29年3月31日の57348冊に減らされている中で）
そして、現在も依然として地域図書館としては、ニュータウンの中でも落合・豊ヶ丘・貝取の人口密集地の図書館として、近隣住民はもとより、市内のあちこちから通ってこられ、今も、児童書が多く、芸術・美術関係の資料も豊富であると、市内で4番目に貸し出し冊数の多い地域図書館として、愛されています。
2. 以上の観点から、これからの地域図書館6館と本館の再編を検討されるに当たっては、これまで利用してきた市民の声を重視して頂き、本館と地域図書館の役割と機能を位置づけし、これまでの多摩市の図書館・基本方針に基づき、全体の図書館サービスシステムを発展させる方向で、3回目の検討委員会（3月24日予定）においても検討されることを願っております。
3. 本館の規模等についても、多摩市は、丘陵地帯にある街であることから、赤ちゃんから高齢者までの誰でもが気軽に利用できる図書館のサービス網を重視し、現在ある地域図書館をしっかり支える本館の役割としての中央図書館的機能を発揮できる本館を望んでおります。
4. 2回目の検討委員会は他市（千葉県・浦安図書館と荒川区立・ゆいの森図書館）見学されるのですが、2箇所の図書館の何を主眼にして見学されるのですか？
例えば、浦安市の図書館サービスシステムと多摩市の図書館サービスを見比べて見てください。蔵書冊数から見て、彼の駅前の猫実分館（5万冊）と多摩市の豊ヶ丘図書（5.7万冊）の貸し出し冊数は、年間で猫実（約10.1万冊）豊ヶ丘（約16.3万冊）＜日本の図書館2017年3月発行による＞
猫実分館は、私も見学してきましたが、238㎡でやはり、子どものコーナーもスペースが狭くてテーブルが一つに6脚位のイスがそれらで囲んでいるが、横には本棚があり圧迫感を感じました。やはり、駅近にある分館で、公民館と併設になっており、便利であるけれども、もう少しゆとり感がほしいと感じました。お話し部屋はどちらも無いですが、豊ヶ丘の子どものコーナーは、ゆとりしているな！と思いつつ見学しました。豊ヶ丘図書館は、市内の6つの地域図書館の中で、延べ床面積は1番狭いのですが、2階の閲覧室も比較的多くの机とイスがあり、10代の子どもたちも春、夏、冬等の長期の休日には利用者が多く来ているのを見かけます。
5. 今後、多摩市の本館が再整備されたら、豊ヶ丘図書館の利用者がどっと減るにきまっているという人もいますが、地域の図書館がこれまで子どもから高齢者までの多世代の利用者の知的好奇心を促してきたことをデータに基づいて注視していかなければならないと考えます。どっと減る事を予想して、先に萎めていくという事が、何を意味しているか、分かっていますか。これまでの豊ヶ丘図書館の蔵書の魅力は、小説だけが多いというわけではなく広い分野の図書が配架され、古いものも多いですが、新鮮な図書も増やしてくれています。市民にとっての魅力ある蔵書の配架について、図書館の職員の方々と市民が共に考える機会をつくる必要性も感じています。
6. また、豊ヶ丘図書館の特徴としては、H28年度多摩市の図書館の鑑別年齢別貸出者数では、80歳以上の貸し出し者数が3700人（全年代の6.1%）、関戸図書館8994人（6.5%）となっております。
市内の他地域では、本館1092人（0.8%）永山8818人（4.4%）、聖ヶ丘1736人（0.7%）
今、医学的にも、生涯健康に暮らすには、脳の活性化には知的好奇心が何よりも大事であると言われており、それには、新聞や雑誌、本などを身近に利用できる地域図書館の存在は、これからの少子高齢化社会をイキイキと生き抜くための重要な社会教育施設では無いでしょうか。

→ 地域図書館6館と本館の再編を検討されるに当たっては、これまで利用してきた市民の声を重視。

→ 多摩市の図書館・基本方針に基づき、全体の図書館サービスシステムを発展させる方向。

→ 市民にとっての魅力ある蔵書の配架について、図書館の職員の方々と市民が共に考える機会をつくる必要性。

※近い将来に個別に地域館のあり方の検討があるだろうと予想されています。豊ヶ丘についてもその時により多くの市民と意見が交わされることと思われれます。

7. また昨今では、子どもたちの成長過程でその年代における絵本や読み物を身近な図書館から借りて、親子で読める環境が、若い世代の家庭の転居先を選ぶ決め手になっていることも話題になっています。多摩市では、これまで、そのような環境づくりのため、市政の重要課題として位置づけられ、子ども読書活動推進計画が3次に亘って策定され、第2次からは、市民連絡会も設置されて、そこで出された日頃からの地道な活動が反映された内容での計画が策定されてきたそうです。

多摩市文庫連絡会の方々や、各地の子ども・地域文庫、そして、中央図書館をつくる会の方々のたゆまぬ学習活動と各方面への熱心な働きかけの活動の積み重ねと、図書館と協力し合ってきた歴史があり、7館の図書館サービス網ができてきたと言えます。そして、この2～3年は、全国同規模の市立図書館における個人貸し出し冊数が全国でも1位～2位～3位を保っており、資料の予約件数も2位という活発な図書館利用状況があり、注目されています。

8. これは、市民の要望にこたえて、初代館長の伊藤俊さん（私が茨城県戸頭団地在任時からお名前をお聞きしていました）が10年かけて築きあげてきた図書館基本システムの歴史的積み上げと、それを是として市民の側でも各方面への働きかけや、各会派の議員の方々の英断と職員による市民サービスの具現化によるものと、実感しています。

9. 昨今、市議会議員の方の中には、図書館にお金をかけて、いのちを守るべき福祉がおろそかになってもいいのかと、地域図書館や複合施設、児童館、公民館などの社会教育施設や社会との接点を広げる複合施設等の維持発展の必要性とを対立的にとらえて、市民を分断させたり、脅したりしている方がいます。最近、そのようなチラシを出した人もいます。しかし、陳情が採択され、市長への要望署名で15000名をはるかに超える署名によって、市議会と市長部局が、行動プログラムを見直さざるを得ない状況が起きた事の意味をしっかりと考えてください。

市民が望む市政の重要課題は、やはり、広範な市民の声を聴き、それを市民と一緒に考えていく姿勢が、何よりも大事にされるべきではないでしょうか。そして、多くの市民の願う社会教育施設の実現のために努力する事を最優先すべきではないでしょうか？

（多摩市は、自治基本条例が市政の最高規範とされています）

10. 私たちは、社会教育施設だけを重視してほしいと言っているわけではなく、一人ひとりの市民の命を預かる社会福祉施設と地域の市民の日常生活の拠点である複合施設についても各方面に働きかけております。

私達は、現在住んでいる地域で、出来るだけ、これからも住み続けられるようにと願っており、そのための市の施策も、市民と共に考え、実現して行くことを願っております。これら2つの重要課題は、市政の中でどちらを優先させるべきだとすることではなく、車の両輪ともいえる重点課題であると考えています。

もともと、公共施設をその面積からだけ、多すぎるとか、時代のニーズに合っていないからと、上からの判断で集約し、駅前の大きな施設の大規模改修と本館再整備（中央図書館）で大変な出費になり、これから、多くの公共施設の更新にも費用が掛るからとして、地域図書館を再び削減するなど、あってはならない事です。現在ある社会教育施設は、これまで、利用してきた市民の声が反映され、そして、新たなアンケートも実施されて、そこでの新たな意見も加味されて、本館と地域図書館のあり方を、検討され計画されることを切に願っております。

11. 職員配置の問題はとくに重要な課題だと思います。現在も図書館職員の非正規化が進められている中で、人口減少問題改善への取組みと矛盾する「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」（29年11月・時点修正）の方向性についての問題点も、再検討して頂く必要を感じております。

この方向性で、職員の非正規化や指定管理化が図書館や公民館等の社会教育施設の分野で進められると、公共施設の産業化が進み、実質的には市民のための公共施設の機能が薄められ、民間のカルチャーセンター的な施設に変質して行く可能性が現実になってくると予想されます。ここでは、市民一人ひとりの知る権利や自由な学びの場を保障するための民主主義的施策が置き去りにされ、社会教育施設にとって大切な、個人の尊厳を大切にされた施策の一貫性が失われ、その方針がさ迷い歩き消失していくという事態が起きてくる事が予想されます。

また、職員の非正規化や外部委託によって、若い世代の市民にとって、いま深刻な課題になっている官制ワーキング問題がますます拡大され、安定した図書館活動が進められなくなる可能性も指摘されています。若者の安定した生活を壊し、結婚もできず、子どももつけない不安定要素を拡大する非正規化は、多摩市でも、人口減少を加速化し、彼らの未来を閉ざすことになるでしょう。こんな多摩市をつくり出さないために、多世代の安定した生活を支える公共図書館網の充実を重視して施策を進めてください。

おわりに、市長部局と教育委員会が、多摩市民の健康な日常生活を重視した市政への舵取りをすすめる施策の具現化として、このたびの、多摩市図書館基本計画策定委員会が位置づけられているならば、その方向性は、15000人以上の市民がこれまで要望してきた、これまでの多摩市の図書館基本方針と、昨年策定された基本構想の7館体制の維持発展を保障する基本計画にしてください。

本館と地域図書館の役割もそれぞれが、バランスよく機能する施設規模にし、蔵書の規模と職員配置についても、本館ばかりを膨張させるようなアンバランスなやり方にはならないようにしてください。

以上の事を、多摩市の図書館サービスシステムの中で、しっかり位置づけてください。

→ 職員配置の問題はとくに重要な課題。